

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201025		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム三保松原 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区三保2432-2		
自己評価作成日	平成26年11月17日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201025-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御入居者様の想いを大切に、グループホームだからできるケアを提供できるよう心がけています。「集団」ではなく、個人個人が「共同」の生活を営める場所という認識のもと、お一人お一人のニーズを模索し、ご入居者様、ご家族様に「愛の家でよかった」と思って頂けるようなグループホームを目指しております。ご入居者様お一人お一人を「知る」ことで想いを把握し、日々のケアにつなげていくよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三保半島の先端に位置し観光地として賑わう場所に事業所はあります。3ヶ所の保育園と継続した交流があり、クリスマスには三保ならではの松ぼっくりツリーやリースを手作りして届け喜ばれています。本年は『気づきシート』を見直したことで堅固な情報収集と分析に繋がり、孫の運動会へ御殿場の保育園まで同行するなど外出支援に活かしています。介護相談員の「ここでは苦情が聞かれない。来るのが楽しみです」の言葉に象徴される細やかな心配りは、2ヶ月に及ぶ根強いアプローチで、物忘れに不安を抱えながらも入居を決めかねていた人の心に響き、「ここなら入ってもいい」と安寧な暮らしへの第一歩を踏み出すに至っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社のビジョンの中の、8項目を出勤時に、スタッフが合わせて唱和することで意識統一を図っている。	個々に携帯するクレド『5つの習慣 3つの力』には具体的な行動指針“利用者主体、”目線を合わせて、などが示されています。朝礼と夜勤申し送り時に唱和し繰り返すことが意識を高めると管理者は考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加したり、近隣の、保育園、小学校の行事に参加させていただくことで地域との交流を図っている。	地域清掃活動に利用者と参加したり、小学校運動会や学習発表会招待もあります。3ヶ所の保育園と交流があり、クリスマス会には松ぼっくりツリーやリースを届け三保ならではの手作り装飾品が喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の理解、認知症ケアの発展に貢献できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に1回の開催を実施している。活動報告をおこなっている。地域のボランティアの紹介を受け慰問につながった。	新旧民生委員、地域包括支援センター職員、家族をメンバーとして定期開催できています。スライドショーによる活動報告は様子がよくわかると好評です。来所日に合わせて介護相談員も参加しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員様の受入れは行っているが行政の担当者様との協力関係は築けていない。	窓口訪問の機会もありお知らせはしていますが運営推進会議への出席は得られていません。介護相談員は毎月訪れ「いい雰囲気ですね、ここでは苦情が聞かれない。来るのが楽しみです」との言葉をもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内において定期的に研修を実施し、スタッフの意識の向上に努めている。	玄関施錠もなく、法人資料に基づいて内部研修をおこなっています。転倒の危険がある人には座る位置やテーブル配置を工夫して安全を確保しています。排泄の意思をうまく伝えられず落ち着かない時には理由をひもとき、抑圧感のない暮らしを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内において定期的に研修を実施している。マニュアルと合わせて、虐待に関する事件の資料も活用し、防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での研修で学ぶ機会を持っているが、活用し、サービスの向上につなげるには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に担当者が、ご家族に不安や疑問点が無いよう説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、運営推進会議での意見交換も行い、年1回のご家族様アンケートも毎年実施し、ご意見、ご要望の収集に努めている。いただいた意見を基に、サービスの向上につなげている。	「職員の入れ替わりが心配」とのアンケート結果から、お便りを通じて身体面・食事・入浴の様子を詳しく伝えることに力を入れました。不安な家族の気持ちを受け止め働きやすい職場にしていこうとの認識に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の会議と、スタッフアンケートの実施により、機会を設け、意見の抽出から反映につなげられるよう努めている。	お茶の味にこだわり銘柄を替えたり、体に良いことから押し麦を使ったり利用者を想うアイデアは都度取り入れています。個人面談とすると堅苦しいため普段の会話で考えが聞けるよう話しやすい雰囲気を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の中だけでなく、普段の会話からもくみ取れるようつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人のニーズと能力を把握することに努め、必要に応じて面談や、意見交換ノートを活用し成長できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所様の運営推進会議に参加させていただいている。第三者評価機構様が主催の研修にも参加させていただき質の向上につなげられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前からご本人、ご家族様とのコミュニケーションを図り、必要に応じてご自宅を訪問したり、入居体験をして頂くことで安心してご入居頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前からご本人、ご家族様とのコミュニケーションを図り、情報だけでなく、ご家族様の「想い」を理解、共感するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの内容、現在のユニットの状況を踏まえたうえで適切な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームだからこそできる関係作りに努めている。さりげない支援でなるべくADLを低下させないケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院の協力を促し、ご家族様からのご協力をいただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や、手紙のやり取りの支援や、ご入居前からの地域資源の活用など、アセスメントを基に支援している。	孫から運動会の招待状が届き、御殿場の保育園まで同行したり、「自宅が見たい」と長時間歩き自分の目で確認できると安心する人に付き添っています。20年になる糠床を持参して大事に手入れする人もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様同士の性格や相性を考慮し、普段の距離感や、スタッフの介入の度合いを配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからでも、退去先に伺わせて頂いたり、電話でのやり取りで、コミュニケーションを一方向的に切らないよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の「想い」を把握するよう、日頃の言動、アセスメントからくみ取れるように努めている。	4項目だった『気づきシート』を“精神面、と”“身体面、に分けて情報収集したことで職員間の意見交換も増え、記述量が充実するといった相乗効果が表れています。それぞれの想いは外出支援に活かされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に、生活パターン、お部屋の家具の配置などを把握し、ご入居後にストレスがなるべくかからないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、日報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合い、ご本人のニーズに沿った計画が作成できるよう努めている。	管理者やケアマネージャーが面会の機会を逃さずに家族からの要望を聴いています。担当者が作った資料と本人が困っていることや希望を書込んだ気づきシートをユニット会議に持ち寄り、プランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や日報、申し送りノートを活用し共有に努めている。それらを基に担当スタッフと計画作成担当者がサービス担当者会議の準備を行い見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出、通院介助に対応している。グループホームだからこそできるサービスの提供を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、地域の行事への参加を継続することで地域の一員として暮らしていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様の希望に沿った主治医にて適切な診療が受けられるようご入居時に説明をさせて頂いている。	専門医を除き、月に2回往診があるため9割が協力医に変更しています。必要に応じ皮膚科、歯科の往診もあります。診断結果は毎月の手紙に添えて家族へ報告し、『受診報告書』に記入して共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の勤務時だけでなく、随時電話で状況報告から支持を仰ぐなどの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ繰り返し訪問し、情報の収集に努めている。その都度、NSやDrからの情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずはご入居時に同意書の説明を行っている。その後もご本人の状態にあわせて支援の方針を話し合い決定している。	重度化への対応については、契約時に事業所でできることできないことを説明し同意を得ています。看取りはおこなっていません。食事が経口摂取できなくなったり、医療行為が必要になった時には他施設の情報提供も合わせ家族と相談しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を実施し、どのスタッフでも対応できるよう努めているが、実践力の向上は実際の対応を経験する必要もあるので、今後も全スタッフが対応できるよう研修を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内にて年2回の訓練を実施している。地域の避難訓練にも数名ではあるが参加している。	年2回消防署の立ち合いを含め訓練があります。通報、初期消火、2階非常階段から車椅子利用者の避難、点呼確認の体験を通して、「まずは予防」との意識を強め火を出さないための防災自主点検票を徹底しています。	夜間想定を含め緊張感を持った訓練が継続されることを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は、お客様であり、人生の先輩であるということを意識しつつ、馴染の関係が築けるように努めている。	年間計画にプライバシー研修を位置付け、「敬語が好みなのかどうか」個々の求める距離感を掴んで接しています。『身だしなみチェックシート』は職員トイレにも掲示し、注意・指導は場面を改めて伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が選択できるようなさりげない配慮と、日常会話からのニーズの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を表しやすい環境づくりから、その「思い」を実現できるような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味を把握し、継続できる環境づくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの表示や、嗜好品の活用、ホーム内の焔の活用をしながら、楽しみを持って食事をして頂けるよう支援している。できる方には、片づけも分担して行っていただいている。	法人メニューに基づいて厨房職員が作り週に1～2度はユニット調理としてリクエストに応じています。自分で食べたものは自分で洗う習慣を貫く人、手慣れた様子で複数名が協力して食器を洗う姿も見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を把握して対応できるようチェック表を活用している。必要な方には個別で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで清潔の保持、状態の把握に努めている。必要に応じて提携の歯科医院への受診、往診にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の状態を把握するよう努めている。又、排泄委員会を中心としてパット、おむつ類の見直しを行っている。	排泄委員会はパッドの試供品を取り寄せて個々に合ったものを選ぶことでコストダウンが実現できています。自宅ではリハビリパンツで過ごしていた人も生活リズムが整うことで布パンツに移行できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食事摂取量を把握し、乳製品やオリゴ糖を個別で利用していただいている。看護師と連携し、便秘の方への対応をその都度検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望の時間に入浴される方もいらっしゃる。入浴の拒否がある方もスタッフや時間を変更して入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。	入浴剤は好みに応じて使用し湯は一人ひとり張り替えています。皮膚の弱い人には専用シャンプーを準備し、職員二人介助でも浴槽に浸かれるよう努めています。「寝る前に入りたい」という声にも応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンや、その時の体調を見極め、リビング、居室で休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、薬剤師の協力のもと服薬の支援をしている。変更の際には報告書で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントを基に、グループホームに入居されてからもご自宅での生活が継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物の他、冠婚葬祭、お孫さんの行事などに参加できるよう支援している。	午前中は散歩や庭の清掃で外気に触れる時間を作っています。海水浴シーズンにかき氷を求め出かけた、アンパンを買って帰ると良眠する人もいます。秋には食事会でホテルを貸切り、スクリーンに映し出される2000枚の写真を家族と共に満喫しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理はホームでさせて頂いているがご家族様のご理解、ご協力を得て、ご本人が所持の場合は基本、管理は自己責任という形で、お持ちの方が4名いらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりホームの電話を使用される方もいらっしゃる。個人で携帯電話を所持、使用されている方も2名いらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様にとって家であり、生活をして頂く場所であるという意識を持ち温度管理や環境整備に努めている。	一直線に並べられたテーブルは利用者間の隔たりのなさが視えます。肘掛付の一人掛けソファはゆったりくつろげるようテレビから離れた場所にあります。掃除好きな人がいつでも箒と塵取りを使えるように取り出しやすい場所に設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の行動パターン、他の方との相性を考慮し、落ち着いて過ごしていただくよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での生活、希望を十分に踏まえ、馴染みのある物を馴染の場所に配置し、安心して生活していただけるよう配慮している。	「テレビは目が疲れる」とラジオを好んだり、冷蔵庫や仏壇、鏡台の持ち込みがあります。ペインティングしたプランターや絵画作品、キーボード、ウクレレといった愛着ある物に囲まれた暮らしを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人のできることを把握して自立を促しながら安全に配慮された環境整備に努めている。		